

平成29年度環境研究総合推進費 研究成果発表会

環境研究総合推進費は、環境省が必要とする研究テーマ(行政ニーズ)を提示して公募を行い、広く産学官の研究機関の研究者から提案を募り、評価委員会及び分野毎の研究部会 of 審査を経て採決された課題を実施する、環境政策貢献型の環境省の競争的資金です。

平成28年度及び平成29年度に終了した課題、戦略研究プロジェクトの中から、水環境に関連し、国民の皆様にもわかりやすく、関心も高いと考えられるものを選び、第52回日本水環境学会年会の協力を得て研究成果発表会を開催します。

研究成果の活用を検討されている自治体・企業の皆様、環境問題について研究を行っている研究者の皆様、環境研究総合推進費への応募をお考えの研究者の皆様など、幅広い方々のご来場を心よりお待ちしております。

日時

平成30年 3月17日(土) 9:30~15:10
(開場9:15)

参加費

無料

会場

北海道大学 工学部
フロンティア応用科学研究棟1階 セミナー室1
(北海道札幌市北区北13条西8丁目)

定員

100名

先着順、事前申し込みを
お願いします。

※第52回日本水環境学会年会の参加登録がない場合でも参加可能です。

プログラム

9:30~9:35	開会挨拶	
9:35~10:05	基調講演	放送大学 理事・副学長 岡田 光正 (環境研究推進委員会 委員長)
10:05~10:25	環境行政の最新動向① 最近の水環境行政について	環境省 水・大気環境局 水環境課 課長補佐 林 誠
10:25~10:45	簡易型乾式メタン発酵による養豚排水処理と発酵残渣の 有効利用(1-1404)	東京農工大学 大学院工学研究院 教授 細見 正明
10:45~11:05	使用済み海水淡水化膜を活用した途上国工業団地での工場 排水再利用システムの開発(3K153006)	中央大学 理工学部 准教授 山村 寛
11:05~11:25	沿岸から大洋を漂流するマイクロプラスチックの動態解明 と環境リスク評価(4-1502)	愛媛大学 大学院理工学研究科 教授 日向 博文
11:25~11:45	水銀の全球多媒体モデル構築と海洋生物への移行予測に 関する研究(5-1405)	国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター センター長 鈴木 規之
11:45~12:05	1,4-ジオキサンの環境動態の把握に基づいた土壌調査法の 開発に関する研究(5-1503)	東北大学 環境科学研究科 教授 駒井 武
12:05~13:30	休憩	
13:30~13:45	環境行政の最新動向② 閉鎖性海域対策の現状	環境省 水・大気環境局 水環境課 閉鎖性海域対策室 室長 山本 郷史
13:45~14:05	閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理法の開発 (S-13-1)	広島大学 環境安全センター 教授 西嶋 渉
14:05~14:25	開放性内湾が連なる三陸沿岸海域における沿岸環境管理法 の開発(S-13-2)	横浜商科大学 商学部 特任教授 小松 輝久
14:25~14:45	陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の 開発(S-13-3)	(公財)環日本海環境協力センター 地域活動センター 主任研究員 吉田 尚郁
14:45~15:05	沿岸海域管理のための統合数値モデル構築 -テーマ1~3を中心に-(S-13)	(公財)国際エメックスセンター 特別研究員 柳 哲雄
15:05~15:10	閉会挨拶	

主催: 独立行政法人 環境再生保全機構

後援: 公益社団法人 日本水環境学会

Profile

放送大学 理事・副学長
(環境研究推進委員会 委員長)

岡田 光正

(おかだ みつまさ)

1971年東京大学工学部卒業。国立環境研究所、広島大学工学部教授、同大学大学院工学研究科長・工学部長を経て、同大学理事・副学長。2011年に放送大学教養学部教授、2017年より現職。日本水環境学会顧問。

東北大学
環境科学研究科 教授

駒井 武

(こまい たけし)

2012年より東北大学環境科学研究科教授。産業技術総合研究所研究部門長、中央環境審議会専門委員、東京都環境審議会、社会地質学会会長等を歴任。専門分野は、環境リスク評価、環境地質学。

東京農工大学
大学院工学研究院 教授

細見 正明

(ほそみ まさあき)

1976年大阪大学工学部環境工学科卒業。国立環境研究所主任研究員、米国防環境保護庁リスク削減工学研究所客員研究員を経て、東京農工大学工学部助教授。1997年より現職。専門は、環境動態解析、環境技術・環境材料。

広島大学
環境安全センター 教授

西嶋 渉

(にしじまわたる)

1992年広島大学工学部助手。その後、広島大学工学研究科助教授を経て、2005年広島大学環境安全センター教授、2006年同センター長。2012年より広島大学研究企画担当副理事。専門は水環境工学。

中央大学
理工学部 准教授

山村 寛

(やまむらひろし)

2008年北海道大学工学部研究科博士後期課程卒業後、旭化成で、水処理膜の開発に従事。2013年より中央大学にて、膜を利用した様々な水処理技術の他、膜の廃棄物問題についての研究に取り組む。専門は、上下水道、固液分離。

横浜商科大学
商学部 特任教授

小松 輝久

(こまつてるひさ)

1976年京都大学農学部卒、同博士課程修了、博士(農学)。京都大学農学部助手、東京大学海洋研究所助教授を経て、横浜商科大学教授。専門は海洋生態学、水産海洋学。日仏海洋学会会長。

愛媛大学
大学院理工学研究科 教授

日向 博文

(ひなたひろふみ)

1995年東京工業大学工学部助手。港湾技術研究所主任研究員を経て、国土技術政策総合研究所主任研究員、2007年同沿岸域システム研究室長。2014年から現職。専門は、沿岸海洋物理学、海岸工学。

(公財)環日本海環境協力センター
地域活動センター 主任研究員

吉田 尚郁

(よしだ たかふみ)

2004年東京大学大学院農学生命科学研究科修了、博士(農学)。2006年より環日本海環境協力センターに所属、2011年より現職。NOWPAP/CEARACの事務局として国際環境協力を従事。専門分野は、海洋環境、国際環境協力。

国立環境研究所 環境リスク・健康研究センター センター長

鈴木 規之

(すずきのりゆき)

1986年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了。博士(工学)。東京大学工学部助手、金沢工業大学講師を経て、2000年国立環境研究所地域環境研究グループ総合研究員、2015年より現職。専門は環境工学、環境化学。

(公財)国際エメックスセンター
特別研究員

柳 哲雄

(やなぎてつお)

1974年京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程修了。愛媛大学教授、九州大学応用力学研究所長を経て、退職後、九州大学名誉教授。2014年より現職。沿岸海洋学の研究に携わる。



ACCESS

地下鉄南北線をご利用の場合

- 北12条駅から徒歩約7分で「北13条門」に到着
- イチョウ並木を通り約5分で工学部正面玄関前に到着

JR線をご利用の場合

- 札幌駅北口から徒歩約7分で正門に到着

北海道大学大学院工学院・大学院工学研究院・工学部
ウェブサイトより

<http://www.eng.hokudai.ac.jp/access/>
<http://www.eng.hokudai.ac.jp/building/>

参加申し込み先

https://krs.bz/erca/m/public_symposium

■締め切り:3月15日(木)ただし、定員(100名)に達し次第、締め切ります。

